

転流周波数について

弊社S V FシリーズD S Pモデルのドライバにおいて、転流周波数は最高で 1200[Hz]まで対応可能となっております。

貿易管理令の規定では、この転流周波数が 600[Hz]以上のものが該当するものとしております。

このドライバに特 0161（転流周波数制限機能）のオプションを付けることにより、転流周波数の上限を 1200[Hz]から 590[Hz]に下げることが可能となります。

（これにより、貿易管理令の規定に該当しない事となります。）

なお、上記の事項はドライバの能力値であり、実際にユーザ様のシステムで使われているモータの転流周波数のことを述べているわけではございません。

現在、ユーザ様にてお使いのモータの転流周波数を以下の計算式より算出してみてください。

[回転型モータ（#38=2 など）の場合]

Fcom : 転流周波数

$$\begin{aligned} F_{com} &= \frac{\text{パラメータ\#7}}{60} \times \frac{\text{パラメータ\#2}}{2} \\ &= \frac{\text{パラメータ\#7} \times \text{パラメータ\#2}}{120} \quad [\text{Hz}] \end{aligned}$$

[リニア型モータ（#38=102 など）の場合]

Fcom : 転流周波数

$$F_{com} = \frac{\text{パラメータ\#7}}{\text{パラメータ\#1}} \times \frac{\text{パラメータ\#2}}{2} \quad [\text{Hz}]$$

仮に、上記の計算式で転流周波数が 600[Hz]以上となる設定でお使いの場合には、パラメータ # 7（最大回転数）を下げて転流周波数の制限に掛からないような設定とする必要がございます。

ご注意

特 0161（転流周波数制限機能）のオプションを実装したドライバにおいて転流周波数の制限に掛かったパラメータ設定をした場合、ドライバアラーム E0001 が強制発行されると共に、ダイナミックブレーキが働き、モータを運転することができなくなります。

なお、速度変動などの影響を考慮し、弊社として推奨される転流周波数の上限としては 585[Hz]（590[Hz]の 5%減）程度がよろしいかと思われま

以上